

高知大学創立七十五周年 おめでとうございます

この記念事業のトップバッターで本年創立百周年を迎える

旧制高知高等学校から御挨拶申し上げます

旧制高知高等学校は大正十二年四月第二十三番目の官立高等学校として

開校しました

その設立は地元の皆様 特に郷土の先覚者植木枝盛と板垣退助の

ご尽力によるものでした

第一回入学式において初代校長江部淳夫先生は開口一番

「感激あれ若人 感激なき人生は空虚なり

おお勇者の態度よ 面を挙げて闊歩せよ」と

熱弁を振るわれてその明言はその後高知高等学校の校風になりました

旧制高知高等学校はこの二十五年後太平洋戦争で全焼し（南溟寮は焼け残る）

学生改革で他の三十七校と共になくなり 旧制高知高等学校は高知大学に変わる

ところで旧制高校は元来帝国大学の予科部門として創立されました

語学を中心に一般教養に重点を置きマンツーマンに近い人間教育が重視され

ました

さらに大半の生徒が寮に入り先輩達と共に日夜文学・哲学を学び
人生を論じ切磋琢磨しつつ生涯の友情を育んだのでした

寮生活の中で先輩が特に強調されたのは「読書せよ」「思索せよ」の二点でした
日本・ドイツ・ロシアの文学書さらに哲学書を読むように指導し

その底流にある思想について議論を交す先輩たちの姿に

中学を出たばかりの我々は畏敬の念を抱き そのような話の輪に

早く入りたくてかなり背伸びしつつ 本を読み深夜まで真剣に議論を続けた
ものでした

このような生活を通じて真なるもの、永遠なるもの、高きものを求める
求道的ともいべき心の姿勢を学んだのが大きな収穫でした

同窓が集まると「オレの一生の方向は高知で決った」と云うのは

そのことを指しております

当時高知は僻地で国鉄土讃線もなく京阪神から高知へ行くのは船が唯一の
交通手段でした

室戸岬の沖はいつも波が荒れて船がよく揺れ 必ず潮吹く鯨の姿が見えて
勇壮でした

十六才、十七才から二十才前後のヤンチャ坊主が全国からこの高知に集まり
勉強に励むかたわら夏は鏡川でクラス対抗のボートレースをおこない

巡航船で桂浜に行き坂本龍馬の銅像をのぞみ中秋の名月を愛でながら

ファイアーストームをしたり秋は全寮開放して文化祭を開催しました
白線帽にマント腰手拭と朴歯の下駄の定番スタイルで寮歌を高唱しながら
街やお城の周辺を闊歩しました

赤ふんどしでハリマヤ橋の交叉点あたりでストームを始めると

やむなく電車は止りリーダーが恐縮して運転手に詫びを入れにゆくと

「高校の生徒さんがヤットルケン 十までユキヤスムキニ チクツト

待ッチャラーネ」

乗客もにこにこ一緒に見物してくれる多少囃にのりすぎたと思いながら
若者には楽しい街でありました

それ以降同窓会活動は活発で五十年史「高知、高知ああわが母校」

「自由の空に」が刊行され 名簿は五年ごとに又同窓会報と同窓会誌は
毎年発行されました

さらに旧制高校の証として 小津町の校舎 南溟寮跡地 桂浜にも
各々の数基の記念碑が建立されました

特筆すべき同窓会活動として創立記念祭の開催があります

昭和三十七年（一九六二）の創立四十周年記念祭を皮切に五年ごとに

開催され 平成二十四年（二〇一二）の九十周年記念祭まで継続され

その都度多くの卒業生が心の第二の故郷高知に集りました

殊に昭和五十七年（一九八二）の創立六十周年記念祭には県民体育館に千数百人が集まって盛大であり 高知新聞は四面全段これを報じ

旧制高知高等学校生の今日あるのは高知県民、市民、皆さんが温い心で我々を迎えて下さったおかげであると心から感謝の気持ちを同窓会の名においておつたえしました

その後県民体育館の行事終了後全員でハリマヤ橋と周辺の繁華街と提灯行列で練り歩き商店街の方々も道ゆく市民の方々も拍手と花火で応じて下さり地元の方々との一体感を心よりありがたく

感謝しています

平成十九年（二〇〇七）創立八十五周年記念祭は旧制高知高等学校と

高知大学の歴史における重要な節目となりました

高知大学学長 相良祐輔先生はこの時

「感激あれ若人 感激なき人生は空虚なり」と

この教えは日本の将来にとっても現代の若い人々にとっても非常に大切であると 又

「古人のあとを慕うなかれ 古人の求めたるところを求めよ」と

芭蕉の言葉を引用されながら旧制高知高等学校創業の精神を

今高知大学が継承したいとの想いを語られたのです

この後は列席した旧制高知高校の卒業生に深い感銘を与え今も相良学長の御挨拶として言い伝えられております

そして旧制高知高校資料展示コーナー

「高知大学の源流をたずねて」の設置拡充という形となりました

旧制高知高等学校同窓会業務は南溟会に引継がれ両者の一体化は

円滑に進行して今日ここに百周年の式典を挙行することになりました

今まで頂いた誠意とお気配りに感謝し心より御礼申し上げます

高知大学が今後も存在感のある有名な学府として発展を続けられますように期待して御挨拶とさせていただきます

二〇二二年五月十四日

旧制高知高等学校 創立百周年記念祭

実行委員長 薄木 卓